令和8年度 第1回 早島支援学校 学校運営協議会 【記録】

1 日 時　令和8年6月9日（火） 13:30～15:30

2 会 場　岡山県立早島支援学校 大会議室

3 参加者　・学校運営協議会委員13名
・事務部長、副校長、各部教頭、主幹教諭、進路指導主事、指導教諭 12名

4 内 容

（1） 開会行事

①開会挨拶　<校長>

学校の現状：

・全校児童生徒 122 名。うち医療的ケアが必要な生徒は 39 名で、県内最大規模の受け入れ体制である。

重点取組：

・看護教員を中心とした医ケア体制の充実（2 年目）。
・DX ハイスクール事業（文科省）の継続による ICT 活用教育の推進。
・体育参観日が終了 明日から行事が目白押し 修学旅行、宿泊学習など計画中のものも多くある。豊かな経験の中で大きく成長してくれることを期待している
・地域連携： 地域の声を学校運営に反映させ、連携を深めていきたい。

②委員紹介　<自己紹介>

③会長選任

・事務局からの提案で西田氏に 承認

④会長挨拶　<会長>

・学校運営協議会（コミュニティスクール）として、地域とつながり、学校運営に対して積極的に意見を出し合い、より良い学校づくりを目指したい。

（2） 説明　<事務局>

①学校運営協議会実施計画について

協議の三つの柱（重点テーマ）：

・安全に関する取り組み
・進路に関する取り組み
・地域交流・地域貢献（今年度から働き方改革に関する取り組みを含む）

（3） 授業参観　<各部教頭>

・CD 部についてはスライドで紹介

（4） 協議　<進行：会長>

①令和8年度学校経営計画について　<校長>

・主体的な学びの推進（GIGA スクール 3 年目）：ICT 機器を活用し、重度の障害がある子どもたちの「意思表出」や「自己肯定感」を高める。
・高等部の生徒が ICT スキルを小中学部の後輩に教えるなど、生徒間の学び合いを促進する。
・安心・安全を支える専門性（防災体制）：南岡山医療センターや近隣の支援学校と連携した実践的な防災訓練を実施。整備内容、計画を協議していく。

・地域とともに歩む開かれた学校：ボランティアとの連携強化。場所の制約を超えた「ウェブ案内」や「バーチャル体験」を通じて、地域との双方向の交流を図る。

・教職員の働き方改革（最優先課題）

現状： 時間外勤務が多く、教職員の体調管理が切実な課題となっている。

改善案の協議：

記録業務の効率化： 生成 AI を導入し、活動記録の要約や写真選定（個人情報に配慮した自動処理）など、事務作業の負担軽減を検討。

業務の精査： 手作りのアルバム作成や過剰な記録など、従来の慣習を見直し、持続可能な指導体制を構築する。

専門外業務の分担： ボランティアや外部資源の活用により、教員が専門的な指導に集中できる環境を整える。

委員からの主な意見

・ICT による子どもたちの表情の変化や、先輩から後輩へのスキル伝承は非常に素晴らしい取り組みである。

・ボランティアとして、専門外の仕事（現場の補助等）を手伝える枠組みがあれば、より積極的に協力したい。

・教員の多忙解消には、AI 等の最新技術を積極的に取り入れ、データの蓄積を将来的な個別指導の質向上につなげるべき。

・兵庫県赤穂特別支援学校 デジタル連絡帳の活用、日々の記録の活用もできる。

→個別の指導計画の単元の計画作成で生成AI活用を進めていきたいと思っている。公務DXも進める学校でありたい。

学校経営計画→承認

②重点協議事項について ＜事務局＞

（安全班）

・南岡山医療センターとの合同防災訓練

・外部講師を招いての合同講習会

・避難所開設訓練、避難所設営シミュレーション（早島町役場と連携）

・避難所体験の取り組み （非常食の試食 防災かばん）

〇昨年度の意見を元にブラッシュアップさせるには

・市役所に防災棟ができ、所内で一元化が進んでいる。参考に。避難所が開所されるまでに 48 時間以内といわれている。それまでは、自分たちで過ごすしかない。発電、電源の確保が重要。

・早島町との連携が不可欠。学校の備えだけでなく、家庭や放デイ利用中に被災することも想定しなければいけない。サービス等の関係機関への啓発と連携が必要。子どもたちを守る人の広がりを図りたい。

（進路班）

・医ケア対応事業所の不足について

本校体育館で、本校の小学部～高等部の保護者、教職員、事業所で交流会を実施

早島地域生活支援センター平岡委員を講師に招き、PTA進路研修会を実施予定

・就職先開拓について

ポケットサポート三好委員と教職員向け研修、中学部生徒向けキャリア教育実施予定

高等部の「卒業生と語る会」の中で、三好委員の紹介による本校 A 部の卒業生や岡山ハローワークの方に来ていただく予定

（地域交流班）

・学校間交流

早島小学校（4 年生）との交流、早島中学校の職場体験の詳細は未定だが、夏休み期間中に夏ボランティアの受け入れ。将来の職業選択や人権意識の向上にも繋がることが期待されている。美術部とも交流を行っている。

・地域公開と作品販売

文化祭（10 月）を土曜日に公開し、日頃お世話になっている地域の方々を招待して学校の様子を知ってもらう機会とする。

「いきいき広場」（地域の文化活動）に作品展示として参加

・ボランティアの活用を含めた働き方改革について

授業補助として大学生のボランティアが 1 名入っている。採点や机間指導補助。

部活の外部指導員は、先生方の働く時間をガラッと変えた。帰宅時間も早くなった。

生成 AI を活用して児童向けのプレゼン資料を短時間で作成するなど、デジタル化による業務効率化が進んだ。ただし、ICT スキルの個人差が課題。

福祉では本職でなくても対応可能な業務（準備や片付けなど）を担う介護支援員「セミプロ」的な人材を配置する仕組みがある。

（5） 閉会行事